加藤老师来开讲!

歌舞伎（二）

今天，我想主要给大家讲一讲歌舞伎的发展历史。

中国早在公元 10 世纪、也就是北宋时期，就已经出现了所谓瓦子勾栏、每天演出说唱曲艺等娱乐大众的表演项目。而日本的娱乐表演起步比中国晚了好几百年，直到 16 世纪末，民间的娱乐表演才开始盛行起来。

其实，“歌舞伎”这个词就出现在 16 世纪，原本是指新潮怪异的时尚装扮。16 世纪末，生活在城市里的一些日本年轻人开始流行穿背离日常生活的奇装异服，并做一些出格的举动寻开心，形成了一股新的潮流。当时，人们就发明了一个新词，把这些穿着怪异、举止出格的年轻人称为“歌舞伎人”。但那时候的政府觉得他们的这些做法扰乱了正常的社会秩序，所以对此出台了禁令。

就这样，日语里的“歌舞伎”一词开始指代一种很酷的生活方式，那就是：不受社会规范的约束，穿着新颖华丽的衣服，自由自在无拘无束地生活。

后来，到了 17 世纪初进入江户时代后，日本流行起一种非常美艳的舞蹈，叫做“歌舞伎踊り”、也就是歌舞伎舞。表演这种舞蹈的最出名的人，是一个名叫出云阿国的女舞蹈演员。过去，封建时代讲究男女有别，但是这位出云阿国却在舞台上女扮男装，把自己打扮成了潇洒的武士。她这种自由奔放的表演形式吸引了许多观众，很受欢迎，人们将她的表演称为“女歌舞伎”。但就在 1629 年，江户幕府、也就是当时的统治政府，却以伤风败俗为由对“女歌舞伎”下了禁令。

“女歌舞伎”被禁之后，日本各地开始出现由年轻俊美的少年登台表演的“若衆歌舞伎”、也就是少年歌舞伎，也博得了民众的喜爱。这些少年有点像现在的男子偶像组合，表演的主要是带有故事情节的舞蹈和短剧。但不幸的是，1652 年幕府再次以伤风败俗为由禁止了“少年歌舞伎”的表演。

在美艳的“女歌舞伎”和青春的“少年歌舞伎”相继被禁之后，到了 1653 年，出现了由成年男子进行表演的“野郎歌舞伎”、也就是男子歌舞伎，也一样很受民众欢迎。这种“男子歌舞伎”正是现在的歌舞伎最直接的雏形。

现在的歌舞伎服饰装扮特别华丽，舞台布置也很奢华，而且歌舞伎演员只有男没有女，这些其实都和 16 世纪“歌舞伎人”掀起的时尚潮流，以及 17 世纪“女歌舞伎”被禁等有关，可以说是历史发展的结果。

那之后，歌舞伎逐渐走向成熟，发展成了一种独立的舞台艺术。拒绝墨守陈规，时刻为民众表演，这正是歌舞伎演员的人生信念。这一点从江户时代到现在，一直都没有改变。

另外，歌舞伎还在日中两国的交流史上添上了浓墨重彩的一笔。

1919 年，中国京剧名伶梅兰芳首次赴日演出，表演京剧戏目，这也是历史上中国京剧第一次在海外公演。演出大获成功，梅兰芳和日本的歌舞伎演员也建立了良好的交往关系。到了 1955 年，当时日中两国还没有建交，日本的知名歌舞伎演员第二代市川猿之助率领自己的剧团去了中国，在北京、上海和广州三地举办了歌舞伎公演。那时候，日本国力贫弱，市川猿之助自掏腰包支付了剧团的旅费，中国国内的费用是由中国来负担的。第二年、1956 年，为了答谢猿之助的这份情谊，梅兰芳再一次来到日本表演京剧，赢得了日本人的喝彩。那时正值东西方冷战时期，但日本的歌舞伎演员却和中国的京剧演员打破了时代的壁垒，谱写了一段友谊与交流的历史。

后来，在 1989 年，第二代市川猿之助的孙子第三代市川猿之助，还携手京剧演员李光一起表演了原创的剧作——超级歌舞伎《龙王》。

顺便说一下，在电视剧《半泽直树》里扮演角色的歌舞伎演员第四代市川猿之助和香川照之，两个人都是 1955 年去中国举办公演的第二代市川猿之助的曾孙。

除前面说的这些以外，梅兰芳的儿子、京剧男旦梅葆玖也和日本的著名歌舞伎演员、男扮女装的“女形”坂东玉三郎多有往来。日中传统戏剧演员之间结下深厚友谊的佳话不胜枚举。

2017 年，为了庆贺日中邦交正常化 45 周年，日本的歌舞伎还在北京举办了公演，或许很多人也都记忆犹新。

希望听友们以后有机会看看日本歌舞伎的介绍和表演!

点击收听

《加藤老师来开讲!》是 NHK 日本国际传媒中文广播节目《波短情长》中的小栏目，特邀日本明治大学教授加藤彻深入浅出、诙谐幽默地讲解日本文化。您有没有想要了解的日本文化或习俗？欢迎给本节目来信或留言!

加藤先生の開講コーナー！

歌舞伎（二）

今日は、引き続き歌舞伎の歴史についてお話しします。

中国では 10 世紀の北宋の時代から、語り物などの庶民の娯楽芸能が盛んになりました。日本の娯楽芸能の発展は中国より数百年遅れ、日本では 16 世紀の末から庶民の娯楽芸能が盛んになりました。

「歌舞伎」はもともと 16 世紀の日本語で、奇抜で新奇なファッションを指す言葉でした。16 世紀の末、日本の都市部では、一部の若者が、当時の常識からかけはなれた新奇な服装をして、突飛な行動をして遊ぶという、新しい生き方を始めました。当時の日本語で、このような新奇な服装と非常識な遊びをする若者を、歌舞伎者、と呼びました。当局は、歌舞伎者を風俗紊乱をもたらす反社会的勢力として取り締まりました。

歌舞伎は、社会常識にとらわれず、豪華絢爛な新奇な衣装で自由奔放に生きるかっこいい生き方、を指すようになりました。

17 世紀の初め、江戸時代に入ると、「歌舞伎踊り」というセクシーな歌舞が流行しました。その中心人物は、出雲阿国という女性ダンサーです。昔の封建時代は、男女の区別が厳格でした。しかし出雲阿国は女性でありながら、舞台上では、りりしい武士の扮装をしたり、自由奔放な芸風で観客を魅了し、大人気になりました。出雲阿国は女性だったので、彼女の舞台は「女歌舞伎」とも呼ばれました。1629 年、当時の政府である「江戸幕府」は、風俗紊乱を理由に女歌舞伎を禁止しました。

女歌舞伎が禁止されると、全国の舞台では、若くセクシーな少年たちによる「若衆歌舞伎」が登場し、民衆の人気を得ました。彼らは、現代の男性アイドルグループのライブのように、ストーリー性のある踊りや寸劇も披露しました。1652 年、幕府は風俗紊乱を理由に、この若衆歌舞伎も禁止しました。

セクシーな女歌舞伎は禁止。少年アイドルによる若衆歌舞伎も禁止。そのため 1653 年から、成人男性による「野郎歌舞伎」が始まり、民衆の人気を得ました。この野郎歌舞伎が、現在の歌舞伎の直接の原型です。

歌舞伎の扮装や舞台装置が豪華絢爛である理由、歌舞伎が男優ばかりで女性の役も男性が演じる理由は、16 世紀の歌舞伎者とか、17 世紀の女歌舞伎の禁止など、歴史が積み重なった結果です。

その後、歌舞伎は舞台演劇として成熟しました。が、社会の堅苦しい常識の枠にとらわれず、常に民衆のために演ずる、という歌舞伎俳優の生き方は、江戸時代も今も変わりません。

日本と中国の交流のうえでも、歌舞伎は大きな役割を果たしてきました。

1919 年、中国の京劇の名優・梅蘭芳は、初めて来日し、京劇を上演しました。これは歴史上初の京劇海外公演の成功例でした。梅蘭芳は歌舞伎俳優と積極的に交流しました。

1955 年、日本と中国のあいだにまだ国交がなかったころ、歌舞伎の名優･2 代目市川猿之助は自分の一座を率いて中国に渡り、北京や上海、広州で歌舞伎の公演を行いました。当時、日本はまだ貧しかったけれど、市川猿之助は私財を投じて中国に渡り、公演しました。翌年の 1956 年、その返礼も兼ねて、京劇の名優・梅蘭芳は日本で京劇公演を行い、人気を得ました。政治的には東西冷戦の時代でしたが、歌舞伎俳優と京劇俳優の友情と交流は、時代の壁を突き破りました。

2 代目市川猿之助の孫である 3 代目市川猿之助は、1989 年、京劇俳優の李光とともに、新作のスーパー歌舞伎『リュウオー』を上演しました。

ちなみに、テレビドラマ『半沢直樹』にも出演した歌舞伎役者の 4 代目市川猿之助と香川照之の 2 人は、1955 年に歌舞伎の中国公演を行った 2 代目市川猿之助の曾孫です。

この他、梅蘭芳の息子で京劇の男旦であった梅葆玖と、歌舞伎の女形の名優･坂東玉三郎の交流など、同じ伝統演劇どうしの交流の例は、枚挙にいとまがありません。

2017 年、日中国交正常化 45 周年を祝うため、歌舞伎の北京公演が行われたのは、まだ記憶に新しいところです。

皆さんも、ぜひ歌舞伎をご覧になってみてください。

中国語音声はこちら

「加藤先生の開講コーナー！」は NHK 国際放送のラジオ番組『波短情長』のコーナーです。明治大学の加藤徹教授が、日本の文化について楽しく解説します。あなたの知りたい日本の文化や風習は何ですか？メッセージもお待ちしています。